

● 食品ロスに関する啓発

栃木県立鹿沼東高等学校 2年

田 中 澤 空



世界では、飢餓による問題が深刻になっています。しかし、日本を始め、先進国や途上国で「食品ロス」の問題が起きています。9人に1人の約8億2千100万人が飢えに苦しんでいる一方、世界では13億トンの食品が廃棄されています。食糧の約三分の一が廃棄されていることになります。

日本では289万トンが家庭からの食品廃棄です。鹿沼東高校では、国連サミットで掲げられた開発目標SDGsの2番目の目標「飢餓をゼロに」にスポットをあて行動しました。具体的には、食品ロスを減らし、困っている人に食品を届けるという目標を設定し、本校の全校生徒、先生に呼びかけ、各家庭から食材を集めました。それを鹿沼市の社会福祉協議会に提供しました。そこでは、「食べ物に困っている人は、コロナで今年は例年より増加しており、どんな物でも嬉しい。グミやチョコレートなども子どものいる家庭に配れるのでありがたい」というお話でした。今回集まったのは、お米やカップ麺が多く、今後はお菓子類も呼びかけようと思います。

食品ロスを減らすには、様々な工夫が必要ですが、特に私たち消費者側は、買い物前に冷蔵庫の中身を確認し、過剰に食品を購入しないこと、食品の適切な保存方法を知るなどです。またお店では「手前取り」を心がけることで、廃棄量が少なくなります。私たちにできることはたくさんあることを意識すべきだと思います。また、余った食品は「フードドライブ」に寄付やおすそわけもいいでしょう。

鹿沼東高校では、この活動を通して、生徒や保護者、先生の意識をどうしたら変えられるか

という取り組みに焦点を当ててみました。本校では「食品ロスに関する意識調査アンケート」を全2回実施しました。生徒・保護者・先生向けに「食品ロスは二酸化炭素の排出の大きな原因の1つだと知っているか?」「3010運動を知っているか?」「コンポストを知っているか?」などの様々な知識を問う質問に対して「はい」「いいえ」で答えてもらいました。1回目の調査では「知らない」という回答がどの質問にも多かったのですが、2回目の調査では「知っている」という回答が増えました。実際にスーパー、コンビニの手前取りなども、回答数の増加があり、このアンケートで意識を変えた人もいたという結果になりました。そして、このアンケート自体が、多くの人が考える、知るきっかけになったと思います。そして誰かが行動を起こすことによって多くの人の意識も徐々に変わっていくのではないのでしょうか。

また、食品ロスによってゴミが増え、それを燃やすことによる二酸化炭素の増加で、地球温暖化が起こり、近年の異常気象は人類の危機と言っても過言ではありません。人類の未来のために、私たちと一緒に、できることから取り組んでいきましょう。



社会福祉協議会寄付